

第117号

酪農とちぎ



10月21日牛魂碑供養時

- 1 ページ 表紙
- 2～4 ページ 令和3年度上半期事業実績（各部門）
- 5 ページ 東西南北、部課だより（業務部）
- 6 ページ 部課だより（購買企画課）
- 7 ページ “ （生乳受託課）
- 8 ページ 理事会だより、令和3年度下期支所事業、市場成績



コロナ対策えみちゃん



令和3年度上半期事業実績

上半期の各部門を合わせた事業総利益は3億9126万円(計画比114.4%)となり、事業利益においては計画差5308万円増、経常利益においても計画差6757万円増の実績になりました。下半期も2カ月を過ぎますが、各事業計画達成に向け事業を推進して参りますので、今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます、以下に各部門の上半期実績について概況を報告いたします。

一、生乳受託事業

生産状況等について

生乳生産量は第1四半期において計画比103.4%と計画を上回る順調な生産となり、7月に入ってから暑さの影響が心配されましたが、夜間は過ごし易い日が多かったことから小幅な影響に留まり、上半期の生産量は12万6876t(前年比107.3%、計画比103.7%)と計画数量を上回る生産となりました。

また、上半期の生乳販売高は、第1四半期は昨年のコロナウイルスによる休校の反動により関東生乳販連の特定乳製品向けが減少しましたが、7月からの緊急事態宣言の影響で逆に増加する等の反転はありました。上半期の受託乳量が計画比103.7%と計画を上回っ

た事により146億8753万円(前年比107.2%、計画比103.1%)の実績となりました。尚、自主申告による上半期の生乳委託予定数量は12万4964t(363戸)であり、出荷実績との対比は101.5%となりました。

乳質について

乳脂肪率は、猛暑の影響による受託乳業務に支障を来す路線が心配されましたが、集乳路線組み替え対応に加え、夜間は過ごし易い日が多かったことから、悪影響を最小限に留める事が出来ました。無脂乳固形分率は、夏場の影響等も少なく前年を上回りました。体細胞数は上半期を通し前年を下回る好成績となりました。

また、上半期の不合格件数は、今年度より不合格に係る金額を変更した影響が心配されましたが、項目により前年を上回った月もありましたが、合計で382件となり前年を107件下回る件数となりました。

生乳生産管理チェックシートの完全定着化については、重点項目の未記帳者を0件と目標を継続することができました。

尚、不良乳の発生は7件(異物混入・抗菌性物質1件、細菌数1件、異常風味2件、血乳3件)と

なり前年(6件)を1件上回りました。

奨励金について

需要期出荷奨励金は1億3664万円(前年比110.2%、計画比104.4%)で、需要期優良生乳出荷奨励金は該当期36.0%、5954万円(前年比117.4%、計画比114.0%)となり合計1億9618万円の実績でした。

二、購買事業

上半期の飼料供給量は、濃厚飼料は混合飼料で他飼料へのメニュー変更による供給量減があり3万8918t(計画比99.6%)、粗飼料は稲WCS等の供給量増と混合飼料からのメニュー変更があり1万5617t、(計画比104.1%)と計画を上回りました。

そのような状況下で、利用別奨励金を配合飼料1億1566万円、粗飼料1357万円、TMR等10008万円、総額1億3931万円、計画比102.5%を支払う事が出来ました。

配合飼料供給量別利用奨励金については、大口利用者の供給量が増えたことで、前年実績及び計画を上回る結果となりました。

収支実績においては、計画外での配当金、特別奨励金があったことにより、事業総利益1億2171万円(計画比134.9%)となりました。

三、酪農指導及び流通事業

酪農指導事業においては酪農経営の安定を図るため、巡回指導を通し飼養管理改善を行ったほか、各種補助事業を推進すると共に、組合・制度資金借入等の相談や組織活動支援に努めました。

経営及び飼養管理改善の指導支援については、酪農経営安定に向けて、飼養管理改善や飼料給与相談を329件行いました。検定成績を活用すると共に、現場で牛の状態や乳成分結果を踏まえ、飼料給与や環境改善策の提案を行いました。

乳質向上に向けては、243件の指導や相談を行いました。その中で、バルク乳スクリーニング検査の結果から個体乳の検査、分房別の検査を行い体細胞数の低減に取り組みました。また、搾乳立会を適宜行い、搾乳手順の確認や搾乳衛生に関するアドバイス等を通して、乳質の向上を図りました。さらに、暑熱期に向け、暑熱対策マニュアル及びヒートストレスメーターを全戸配布し、夏場の飼養管理について注意喚起を行いました。体細胞数の不合格件数は、各月で前年を下回り、上半期合計で286件(前年比▲99件)となりました。平均体細胞数についても、19.3万個/mlと20万個/mlを下回りました。

補助事業関連については、個々の経営安定向上を目的として各種事業に取り組みました。畜産・酪農収益力強化整備特別対策事業(クラスター事業)をはじめ、中小酪農経営等生産基盤維持・強化対策



事業、畜産・酪農生産力強化対策事業、和牛遺伝資源流失防止対策緊急支援事業、環境負荷軽減型酪農経営支援事業、酪農経営体生産性向上緊急対策事業（畜産ICT事業）、酪農経営災害緊急支援対策事業に取り組みました。

また、規模拡大や施設整備を行う組合員に対して、関係機関や金融機関との協議を行いました。

良質自給飼料生産の安定と拡大に向けた取り組みについては、酪農とちぎアグリサポートにおいて、各支所と連携し、効率的な作業が行われるように対応いたしました。

また、良質自給飼料増産プロジェクトにおいて、デントコーン播種、耕作地の排水対策について文書を2回発信し、良質な自給飼料生産に対する啓蒙を行いました。

県北を中心に放射性物質の影響による牧草の給与前検査が必要なことから、サンプル採取の巡回等を通し、安全で安心な生乳生産に努めました。

粃米サイレージの製造は、高根沢町と下野市の2拠点において、42名の稲作農家から約148ヘクタールの粃米を買受けし、粃米サイレージの製造へ向け準備を行いました。

担い手の確保については、後継者向けの経営能力向上のため、関係機関と連携し、栃木県酪農経営ゼミナールを開催しました。カップリンゲパーティーについては、開催を見合わせました。

酪農ヘルパー事業については、

ヘルパーの稼働実績は、新型コロナに伴う定休利用の減となりましたが、傷病利用の増により計画を上回りました。ヘルパー事業の効率的な運営のため、シフト調整や連絡手段の事務効率化に向けたクラウドの活用について、検討を行いました。また、ヘルパーの定着化、ヘルパー制度の維持を念頭に、就業規則改正の検討を行いました。

生乳生産現場の環境整備と美化の推進について、牛舎環境調査を実施いたしました。全体の99.1%の組合員の方が70点以上の点数を獲得されました。様々な伝染病の

リスクが高まる中、消毒槽の設置等、防疫措置に関し今後も引き続き啓蒙してまいります。

各組織の充実については、各組織が展開する事業運営について、新型コロナウイルス感染症拡大防止を図りつつ自主的な組織活動の充実に向け活動協力を努めました。また、青年部活動において、リモートによる研修会を開催しました。

乳牛導入事業は、組合員間の初妊牛の導入や、離農による経産牛の販売が多くあり、計画を上回りました。（103頭 計画比171.7%）

肉用化事業は、更新出荷の減により、計画を下回りました。（261頭 計画比92.9%）

預託事業は、県外預託は頭数減であったが、県内預託で計画以上の入牧があり、計画を上回りました。（6699頭 計画比103.3%）

令和3年度上半期 予算実績比較表

（単位：千円）

項目	計画	実績	計画差	計画比(%)	
生乳販売	収益	15,866,184	16,355,857	489,673	103.1%
	費用	15,645,962	16,121,982	476,020	103.0%
	利益	220,222	233,874	13,652	106.2%
購買	収益	4,010,955	4,337,548	326,593	108.1%
	費用	3,920,725	4,215,839	295,114	107.5%
	利益	90,230	121,709	31,479	134.9%
酪農指導	収益	127,839	132,651	4,812	103.8%
	費用	123,326	123,663	337	100.3%
	利益	4,513	8,988	4,475	199.2%
流通	収益	226,454	224,447	▲2,006	99.1%
	費用	225,845	223,746	▲2,098	99.1%
	利益	609	700	91	114.9%
改良	収益	197,749	204,862	7,113	103.6%
	費用	183,598	190,172	6,574	103.6%
	利益	14,151	14,689	538	103.8%
診療	収益	17,779	18,288	509	102.9%
	費用	8,229	8,297	68	100.8%
	利益	9,550	9,991	441	104.6%
牧場	収益	94,702	102,391	7,689	108.1%
	費用	91,915	101,076	9,161	110.0%
	利益	2,787	1,315	▲1,471	47.2%
事業総収益	20,541,662	21,376,047	834,385	104.1%	
事業総費用	20,199,600	20,984,778	785,178	103.9%	
事業総利益	342,062	391,268	49,206	114.4%	
事業管理費	345,530	341,647	▲3,882	98.9%	
事業利益	▲3,468	49,620	53,088	-	
事業外収入	11,522	30,585	19,063	265.4%	
事業外費用	5,700	10,279	4,579	180.3%	
経常利益	2,354	69,926	67,572	2970.5%	

同 (株)酪農とちぎアグリサポート予算実績比較表

（単位：千円）

項目	計画	実績	計画差	計画比(%)
収益	56,040	58,351	2,311	104.1%
費用	53,854	56,979	3,125	105.8%
利益	2,186	1,372	▲813	62.8%

四、改良事業

凍結精液について、乳用牛は、畜産・酪農生産力強化対策事業（クラストー）及び後継牛安定確保対策事業を活用し性別別精液の利用を促進しました。販売実績は、クラストー事業分精液供給のズレに



より、計画を下回りました。

肉用牛は、AI事業体の協力を得て人気種雄牛精液の確保に努め、精液情報及び価格の変更等情報提供に努めました。販売実績は、一部人気精液の入荷制限等により計画を下回りました。(乳用牛実績8244本 計画比95・3%) (肉用牛 実績9654本 計画比98・5%)

受精卵は、リピートブリーダー対策のF1受精卵の供給推進等を行いました。(受精卵 実績2173個 計画比126・0%) 和牛遺伝資源流失防止対策緊急支援事業については、計画承認の遅れにより販売本数は計画を下回りました。一方で、通常和牛体内受精卵の販売が多くあり、受精卵全体では計画を上回りました。登録業務について、血統登録証明書は事故の解消等に努めながら自動登録を推進しました。また、前期牛群審査の実施や今年度よりゲノミック評価利活用について推進しました。実績件数については、血統登録の個別申込が少なかったことや、牛群審査頭数の減、ゲノミック検査の申請時期のズレにより計画を下回りました。

牛群検定事業や後代検定事業の普及支援に努めました。各検定組合の組合長と事務局を対象に、書面にて各関係情報を提供し、検定員の質の向上に努めました。ゲノミック評価についての説明会を開催し、ゲノミック検査の受付を開始しました。36戸の事業参加

があり、そのうち18戸260頭の検査を行いました。農場ごとに検査結果をもとに牛群の傾向を踏まえ、交配計画の策定を行いました。

五、診療事業

繁殖検診事業について、直腸検査は、ふれあい牧場の検診頭数が多く計画を上回りました。(6825頭 計画比101・4%)

血液検査は、周産期病予防のための検査依頼が少なく計画を下回りました。(29頭 計画比48・3%) 乳房炎防除事業について、バルク乳検査は、計画通り各支所実施しましたが、離農等による実施戸数の減により計画を下回りました。(319件 計画比97・9%) 個体乳検査は、バルク乳検査後の依頼が少なく計画を下回りました。(217頭 計画比77・5%) 分房乳検査は、依頼や必要性が少なく計画を下回りました。(63本 計画比63・0%)

受精卵移植事業について、採卵は、和牛は計画通りでしたが、ホルスタインの依頼が少なく計画を下回りました。(5頭 計画比71・4%) 移植は、ふれあい牧場での依頼が多かったものの、それ以外での移植が少なく計画を下回りました。(102頭 計画比87・2%) 診療・その他について、人工授精は、検診時に同期化授精を積極的に実施したため、計画を上回りました。(372頭 計画比103・3%) 診療等は、一般診療の依頼が

多く計画を上回りました。(60件 計画比150・0%)

証明書発行は、授精証明書の発行が多く計画を上回りました。(117件 137・6%)

放牧場関係は、ふれあい牧場の預託希望頭数が多かったことと、放牧場でのワクチン接種が増えたため、計画を上回りました。(458件 114・5%)

六、牧場事業

牧場の飼養、圃場管理全般の作業等を(株)酪農とちぎアグリサポートに委託し、効率的な事業運営を図りました。

ふれあい牧場の預託頭数確保については、預託需要が増えていく状況の中、計画預託頭数の確保が出来ました。(預託延べ頭数11万4560頭 計画比107・7%)

飼養管理、衛生管理を徹底し、発育向上に努め、また月2回の定期検診等を行い、平均分娩月齢は24・7ヶ月となりました。

飼料価格が高止まりしている状況の中、自給飼料及び国産飼料の有効利用を図りました。生産物は、収穫作業の遅れにより計画を下回りました。(生産物998・9t 計画比66・2%)

ふれあい牧場と各放牧場の一体管理による効率的な事業運営について、小林放牧場と土上平放牧場を利用し、効率的な運営を行いました。(小林放牧場50頭 土上平119頭)

七、経営管理

事業管理費は、人件費が職員等減により計画を下回り、新型コロナウイルスに伴う活動自粛等により旅費交通費並びに業務費も計画を下回ったことから3億4164万円(計画比98・9%)の実績でした。

(株)酪農とちぎアグリサポート

牧場の運営支援と組合員の自給飼料生産支援又は、労力の軽減支援を図ることを事業方針とし、事業を実施して参りました。特に人的支援については、要望が多く計画を上回る実績となりました。

収支実績については、受託農家の収穫物が多かったため収入増ではあったが、資材費用増及び農機具費増により計画を下回る実績となりました。

飼養管理について、飼養管理、衛生管理を徹底し、発育・繁殖向上に努めました。平均分娩月齢は24・7ヶ月齢となりました。

圃場管理について、良質自給飼料生産に努め収穫作業を実施しました。収穫量は、収穫作業の遅れもあり計画を下回りました。(実績998・9t 計画比66・2%)

受託事業について、デントコーン等収穫受託作業の遅れもありましたが、ほぼ計画通りとなりました。(実績278・7ha 計画比98・8%) 人的支援について、堆肥散布、デントコーン収穫作業等のオペレーター作業が増え、計画を上回りました。(実績1308・5時間 計画比165・6%)



東西南北

那須高原支所

女性会那須及び黒磯支部による
寄せ植え、花苗の配布

10月11日、女性会那須支部（高井佳子支部長）では、環境美化活動の一環として、寄せ植えの配布を行いました。

今年度の活動計画のため支部員へアンケート調査を行い、寄せ植えを行いたいとの意見が多くあがり、寄せ植えの配布を行いました。ウイルズ感染症の終息の見込みもなく、開催は見送りとなりました。しかし、支部員の声をもとに、希望されるものを形でお届けしようと決め、寄せ植えの配布を行うことにしました。

寄せ植えは、日頃からお世話になつていて、頼りに依頼し、数は多いものの、快く引き受けてくださいます。シクラメンを中心に色とりどりの花が植えられ、玄関先でも牛舎の入り口でも映えるものを



新型コロナウイルス感染症終息の願いを込めて

ご提供していただき、支部員の方々は大変喜ばれておりました。

11月2日には、女性会黒磯支部（石塚美重子支部長）で花苗及び球根の配布を行いました。

毎年恒例となる事業として、パチューン、チューリップの花苗及びヒヤシンス、チューリップの球根を配布しました。

また、乳製品消費活動拡大及び免疫向上のためヨーグルトギフト券の配布も行いました。

3分の2は秋から春まで年間を通しての少ない季節で、花壇や鉢植えには欠かせません。

春には綺麗な花を咲かせてくれると思います。

ワクチン接種が全国的に70%超え、感染者数も減少してきました。

が、第6波を懸念し、まだ活動は自粛せざるを得ない状況ではあります。

また元気に支部員同士で楽しく活気ある活動ができるようになればと思っております。

県南支所

花の苗配布（支所協議会）



春まで楽しめるパンジー・ビオラを配布

11月11日、支所事業における環境美化の一環として、花の苗（パチューン・ヒヤシンス）およびプランターを配布しました。

例年は、2地域酪農組合合同研修会と同日に配布していましたが、今年はコロナによる研修会の

部課だより

業務部

●乳牛展示販売会開催される

10月26日に、毎年恒例となつていす令和3年度第1回目の酪農とちぎ乳牛展示販売会が盛大に開催されました。前日の夜から降り続いた雨がちょうど降り止み青空がのぞいた中、本年も組合員の皆様が愛情たっぷり育てた自慢の初妊牛が、34頭出展され、販売会々



延期により、青年部員の方々に協力を頂きながら、管内組合員へ配布をいたしました。

最後に、忙しい時期ではありませんが、配布に協力頂いた青年部役員をはじめ、部員の方々に厚くお礼申し上げます。

場は購買希望者・当日飛び入り参加者・出品者で大賑わいとなりました。

出品牛の確認後、一頭ずつ希望牛の前にて挙手をしていただいていた結果、31頭が売買取成となりました。

中には一頭の牛に複数の希望者が殺到し、抽選くじで当たりを決めるような盛り上がりを見せる場面もありました。

当日の結果は別表の通りとなります。酪農とちぎ

では今後も地域の生産基盤維持に向けた取組の一つとして、乳牛展示販売会を続けていきたいと考えています。

令和3年度第2回目の乳牛展示販売会は、令和4年2月に予定をしています。

購入希望・販売希望どちらの方も大歓迎ですので、これまで乳牛展示販売会にご縁のな

かった組合員の皆様も、是非ご検討いただけます。

よろしくお願いいたします。

結果表

第1回（10/26開催）

(円・税込)

出場頭数	成立頭数	最高額	最低額	平均価格
34	31	640,000	480,000	562,903



酪とち指定配合飼料

『酪とちクラウン76』新発売

このたび新配合飼料として、酪とち指定配合飼料『酪とちクラウン76』を発売する運びとなりました。この配合飼料は、配合飼料充

実化プロジェクト会議において、昨年度より、配合飼料価格高騰を見据え、トータルコスト削減に向けた配合飼料開発に取り組みまし

た。低価格だけではなく、内容も充実し安心して使用して頂ける配合飼料作成をコンセプトに考えたものです。

新発売

規格：500kg トランスパック・バラ

酪とちクラウン76



酪農とちぎ農業協同組合指定配合飼料

原材料名等

原材料の区分	配合割合	原材料名
穀類	62%	とうもろこし, 加熱大豆, 大麦 小麦粉
植物性油かす類	16%	なたね油かす, 大豆油かす, コーングルテミール
そうこう類	16%	コーングルテンフィード, ふすま, 米ぬか
その他	6%	綿実, 糖みつ, 炭酸カルシウム, 食塩

保証成分

粗蛋白質	16.5%以上
粗脂肪	2.0%以上
粗繊維	10.0%以下
粗灰分	10.0%以下
カルシウム	0.15%以上
リン	0.25%以上
T D N	76.0%以上

本製品の特徴
 としまして、サイレージの溶解性蛋白を無駄なく利用できる、高エネルギータイプとなっております。こだわりとして、フレーク割合を抑え、その分をペレットに組み込むことにより選び食いによるアシドーシスを極力抑えるようにしました。更

に、実績のある『酪とちDCシリーズ配合』とペレットを共通化することにより、安心して使用できる内容で更に低コスト化を実現することができました。
 発売に至るまでに、10月から4件の組合員（酪とちグラス76、酪とちベース75使用）に試験給与をお願いし、成績を確認しました。試験協力組合員においては、切換え時に既存の配合飼料と混ぜながら給与をすることによって、スムーズに移行することができました。給与メニュー内容としましては、既存の配合飼料との置き換えを行った程度です。嗜好性も良く、変更前に比べ乳成分、乳量、糞の状態とも良好な結果となりました。
 内容充実で、コスト低減と安心して給与できる配合飼料が出来上がりましたので、トータルコスト削減にぜひチャレンジしてもらいたいと思います。給与相談や切換え後のフォローに際しても対応いたしますので、各支所業務推進課までお問合せ下さい。

生乳受託課

令和3年10月度の組合生乳生産量は、2万1055t（前年比108.6%）となりました。各支所の受入乳量は、那須高原支所1万4524t（前年比113.0%）、宇都宮支所2381t（同99.5%）、県南支所4151t（同100.2%）となり、出荷者数は前年同月より21戸減の354戸（内、学校1）となりました。

10月度の組合平均乳質は、脂肪率3.85%（前年差+0.04%）、無脂固形分率8.87%（同+0.02%）と乳成分は上がり、体細胞数についても19.35万と前年より約1万低下し改善されている状況です。

関東生乳販連の10月の総受託乳量は8万5501t（前年比102.8%）となり、9ヶ月連続し前年を上回る状況です。用途別販売数量を見ると、学校を除く飲用向けは前年比104.8%と前年を上回りました。学校向けは学校行事がなくなり給食日数が増加した昨年の反動で91.9%に留まりました。また、一時的な業務用需要回復の兆しはあったものの、低水準での業務用需要が続いていることもあり、脱粉・バター等向

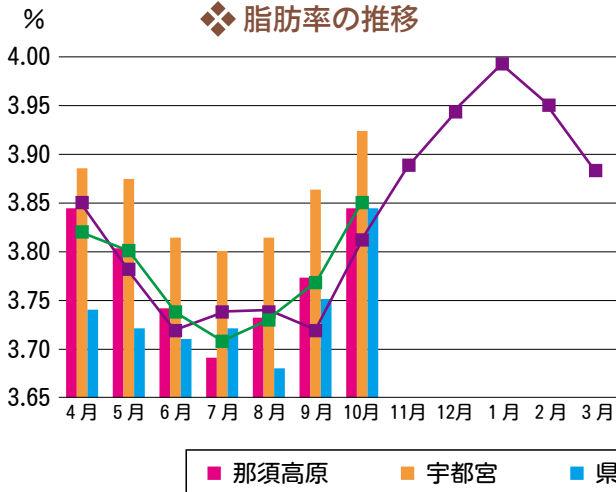
けが前年を大きく超過しました。全国の生産量は102.6%と24ヶ月連続で前年を上回りました。北海道が前年比103.6%と32ヶ月連続で上回り、都府県も101.3%と3ヶ月連続で前年を上回りました。

なお、令和3年10月度の生産量・乳質、及び関東生乳販連の用途別販売数量は別表の通りです。

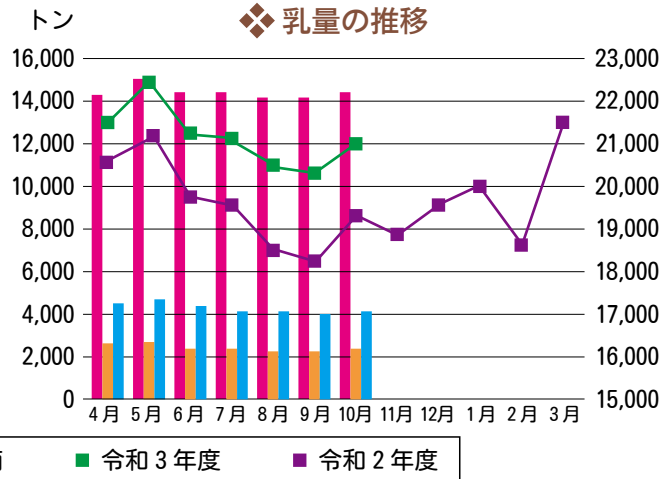
令和3年度 関東生乳販連用途別販売数量 (単位: kg・%)

用途	10月期実績	前年同期実績	前年比	10月末実績(累計)	前年同期実績	前年比
飲用牛乳向け	67,824,975	66,348,753	102.2	468,386,080	456,187,059	102.7
(うち学校を除く飲用)	55,569,471	53,007,133	104.8	403,061,879	403,055,561	100.0
(うち学校向け)	12,255,504	13,341,620	91.9	65,324,201	53,131,498	122.9
はっ酵乳向け	12,196,242	12,233,330	99.7	87,024,932	89,310,633	97.4
脱粉・バター等向け	4,294,202	3,360,772	127.8	49,444,945	41,988,174	117.8
(うち委託加工向け)	0	0	-	0	0	-
生クリーム等向け	1,081,521	1,151,860	93.9	7,245,593	7,863,040	92.1
チーズ向け	103,795	82,685	125.5	657,261	454,245	144.7
全乳哺育向け	0	0	-	0	0	-
総受託乳量	85,500,735	83,177,400	102.8	612,758,811	595,803,151	102.8
脱粉・バター等向け比率	5.02	4.04	-	8.07	7.05	-

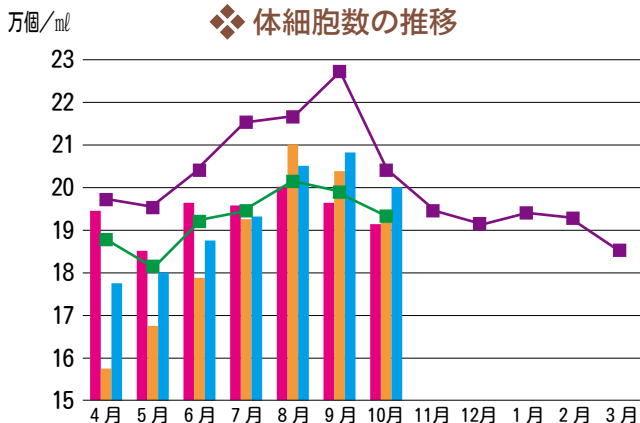
◆ 脂肪率の推移



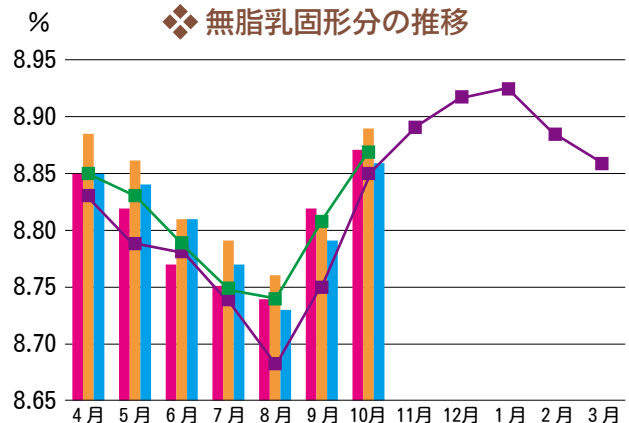
◆ 乳量の推移



◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分の推移



理事会だより

7月度理事会 (7月30日)

- (一) 報告事項
 - 組合員の加入について
 - 業務経過報告について
 - 組合資金貸付について
 - 賃上げ及び夏季手当の支給について
 - 組合プール乳価について
 - 特別管理未収金の報告について
 - 乳牛飼養動態調査結果について
 - 子会社の第1四半期事業実績について
- (二) 協議事項
 - 関東生乳販連情報について
- (三) 報告事項
 - 6月度及び第1四半期事業実績について
- (四) 協議事項
 - 固定資産の取得について
 - 外部団体等の役員推薦について(追認)
 - 第20回通常総会質問・意見要望書に対する回答(案)について
- (五) 報告事項
 - 業務経過報告について
 - 組合資金貸付について
 - 組合プール乳価について
 - 生乳生産管理チェックシート
 - 記録・記録状況について
 - 関東生乳販連情報について
- (六) 協議事項
 - 7月度事業実績について
 - 乳製品過剰在庫支援(追認)について
- (七) 報告事項
 - 固定資産の取得について

9月度理事会 (9月30日)

- (一) 報告事項
 - 業務経過報告について

- (一) 報告事項
 - 組合資金貸付について
 - 組合プール乳価について
 - 関東生乳販連情報について
 - 東京電力原発事故農畜産物損害賠償について
- (二) 協議事項
 - 8月度事業実績について
 - 固定資産の取得について

10月度理事会 (10月26日)

- (一) 報告事項
 - 組合員の加入について
 - 業務経過報告について
 - 組合資金貸付について
 - 組合プール乳価について
 - 特別管理未収金の報告について
 - 子会社の上半期事業実績について
 - 関東生乳販連情報について
 - 東京電力原発事故農畜産物損害賠償について
- (二) 協議事項
 - 9月度及び上半期事業実績について
- (三) 報告事項
 - 就業規則等の改正について
 - 固定資産の取得について(追認)

令和3年度下期支所事業

那須高原支所

- 10月19日に支所活動推進協議会(斎藤章会長)に係る4地域酪農組合長会議を開催し、下期事業について協議しました。

【実施事業】

- 11月19、20日(7日間) 第2回牛舎環境調査
- 12月20日(予定) 支所全体研修会(講演会)
- 酪農情勢について

【1月に最終判断予定事業】

- ボウリング大会(2月実施予定)

宇都宮支所

- 11月22日に支所活動推進協議会役員会(木村康彦会長)が開催され、下期活動推進についての検討を行いました。

【実施事業】

- 10月28日 花苗の配布(報告)
- ・苗・ビオラ・球根・クロッカス・チューリップ・ガーデンヒヤシンス 全戸配布しました。
- 今後の予定としまして
- 12月6、8日(3日間) 牛舎環境調査巡回
- 1月(予定) 支所協議会及び地域酪農組合合同新春懇談会

【中止事業】

- 支所全体研修会(例年年内開催予定)
- ・コロナ禍により中止となりました。

県南支所

- 10月15日、支所活動推進協議会役員会(羽石智昭会長)を開催して、今年度下期事業について協議を致しました。

【実施事業】

- 11月11日 花の苗配布
- 2月 支所全体研修会(予定)
- ・コロナの感染状況で開催は判断する
- 3月上旬 確定申告相談会
- ・指導・組合顧問税理士 齋藤謙一氏

【中止事業】

- 年度内随時 青色申告学習会
- ・指導・組合員の根本壽一氏及び大阿久善之氏
- 3月 支所全体交流会(バーベキュー)

以上、各組織により事業運営して参りますので、今後ともご協力の程、宜しくお願ひ致します。

10月度 ホクレン初妊牛市場成績 (単位:千円(税込))

市場名	開催日	出場頭数	成立頭数	取引率	平均価格	(そのうちET牛)		
						出場頭数	成立頭数	平均価格
根室	10月4日	379	315	83.1%	632	39	30	624
釧路	10月5日	362	286	79.0%	559	6	6	844
十勝	10月6日	597	495	82.9%	652	76	62	916
北見	10月20日	417	309	74.1%	553	14	10	713
十勝	10月21日	595	516	86.7%	622	98	85	788
豊富	10月22日	427	360	84.3%	553	9	6	620
根室	10月28日	381	319	83.7%	604	35	32	800
合計		3,158	2,600	82.3%	596	277	231	758
前月		2,750	2,273	82.7%	617	174	144	831
前年同月		2,642	2,435	92.2%	740	220	207	882

初妊牛の今後の動向は2月~3月上旬分娩が中心となります。8月から10月までの北海道各市場では、規模拡大・増頭需要がひと段落した状況と、資源頭数が潤沢な状態が続いたため、価格は下落基調となりました。今後も状況自体は大きな変化がないものと思われ、春産みの初妊牛が上場するシーズンが始まる頃に合わせて、需要も回復傾向を取る事が想定されるため、今後の相場は概ねやや弱含み~もちあいで推移するものと思われ、導入を希望される方は腹条件、分娩月をご検討の上での申し込みをよろしくお願い申し上げます。

10月度 県内家畜市場成績 (単位:円(税込))

市場名	種別	出場頭数	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均	前回比
那須(10/30)	F1雄	169	169	64	347,600	550	171,459	▲1,780
	F1雌	140	140	63	275,000	27,500	153,953	11,970
	ホルス雄	155	152	65	160,600	4,400	111,839	22,842

今回の初生牛相場は前回から比較して、F1雄はやや弱含み、F1雌・ホルス雄は強含みで推移しています。F1雄の相場動向を見ますと、前回比では22千円のプラスとなっているものの、7月から比較すると約100千円のマイナス(7月平均価格273千円)となりました。例年冬から春先にかけて価格は下降傾向を取ることが多く、今後はもちあいや弱含みで推移するものと思われ、引き続き経済状況、コロナウイルスの感染状況・緊急事態宣言等の外的要因で予測不能な動きをする可能性もありますので、注視していく必要があります。